



この盾は、ここ慶應大学医学部に移り3年になりますが、新しきできた教授室の飾り棚に飾ってあります。1997年、臨床薬理振興財団から頂いた第一回学術奨励賞「時間薬理の治療への応用」の盾です。当方が藤村先生に助教授（当時の呼び名；現在の准教授）として迎えていただいたのが1995年ですから、藤村先生のご専門である時間薬理学に対する「名誉のお裾分け」であることは言うまでもありません。

当時、当方は外科の助手（当時の呼び名；現在の助教）をしておりましたが、ラットを用いた臓器移植モデルを臨床の合間にやっておりました。「免疫抑制薬の時間薬理を頑張ってください」38歳の当方に研究に専念できる大きなチャンスくださいました。藤村先生は、時間薬理研究のためにラット室に寝袋をもって研究されている方でしたが、怠け者の当方は、明暗12時間の逆転部屋を作って、その努力の半分でことを始めました。今、当時を振り返りPubMed- Official siteにFujimura A and Kobayashi Eと入れると1996年から2005年に65の研究論文が出てきます。しかしいまだ「名誉のお裾分け」の恩義に対する感謝が十分ではありませんが、やる気のある若い人のチャンスを惜しみなく出せる人間になりたいと思うようになりました。

今後ともどうぞご指導賜りますようよろしくお願いいたします。

慶應義塾大学医学部 臓器再生医学寄附講座  
小林 英司